



Hibワクチンと、小児用肺炎球菌ワクチンは2013年度から定期接種となりました。

HibワクチンはHibによる感染症を防ぐためのワクチンです。Hibは、インフルエンザ菌b型という細菌の略称で、冬場にはやるインフルエンザを起こすインフルエンザウイルスとは異なります。細菌性髄膜炎、肺炎、喉頭蓋炎などの重篤な感染症の原因菌の一つです。特に5歳未満の乳幼児で注意すべき原因菌です。

小児用肺炎球菌ワクチンは肺炎球菌による感染症をふせぐためのワクチンです。肺炎球菌は細菌性髄膜炎、肺炎、中耳炎などの子どもの感染症の原因菌の一つです。

どちらのワクチンも、乳児期の重篤な感染所を防ぐために、生後2ヶ月から生後7ヶ月未満で接種を開始することが標準的な接種方法です。標準的な時期に接種開始することが理想ですが、それ以降の年齢でも接種することは可能です。接種開始年齢（月齢）によって接種する回数が異なります。乳児期は、BCG、四種混合などの公費のワクチンとロタウイルスワクチン、B型肝炎ワクチンなどの任意ワクチンの接種時期でもあり、医療機関でよく相談をして、接種時期を決めてください。